松前城　北海道松前郡松前町字松城

福山城は松前城とも呼ばれ、北方警備の重要性から幕府が特旨をもって築城を命じたもので、高崎藩の兵学者市川一学の設計により、嘉永 3 年（1850）に着工し安政元年（1854）に完成した我が国最北に位置する最後の日本式城郭である。当時は新しい城を造ることが全国的に禁止されていたため松前城の築城は極めて異例であった。明治 8 年までに城内は開拓使の命によって取り壊しとなった。その際残された三層天守と本丸御門および東塀が昭和 16 年（1941）に国宝指定となり、三の丸には海に向けて 7 基の砲台が置かれていた。但し、海外からの砲撃に備える観点から高さを制限し天守の規模は小規模とした。しかし、昭和 24 年（1949）6 月 5 日役場火災の飛火によって天守・東塀は焼失し、本丸御門（大手門）を残すのみとなり福山城唯一の遺構となった本丸御門（大手門）は昭和 25 年（1950）8 月 29 日重要文化財に指定された。また、幕末から明治にかけての戊辰戦争では、新選組副長の土方歳三が攻め込んだ歴史もある。（パンフ、旅コト資料）

同城　説明版

福山城の石柱

松前城の石柱

石垣

天守

石垣の砲台の跡

濠

砲台跡地

台場

本丸御門(重文)

旧福山城表御門(京都伏見城の一部を移築)